

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイグループ ぱーく			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日 ~ 2025年 2月 28 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22人	(回答者数)	17人
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日 ~ 2025年2月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 24日			

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	2024年4月1日より、二つの事業所を一つにしたことで、小学生から高校生までが、同じ場所で活動を行うことができ、お互いに面倒を見たり見られたりと、年齢を超えた縦のつながりができたこと。	毎日、送迎の担当者、送迎時間の確認、その日の利用者についてのミーティングを行い、スタッフ間で共有をしている。保護者からの連絡事項は、必ず職員に伝えるよう、連絡帳のコピーを確認書類にファイルしておき、目を通したら、業務日誌に〇をつけてもらっている。毎月1回、スタッフミーティングで、問題行動がある利用者については、意見を出し合い、支援方法を共有している。	問題行動がある利用者については、スタッフの意見を出し合い、時間をかけて検証を重ねていき、何がその子にとって良い方法なのか話し合っ決めて。
2	音楽、身体表現、創作は、音楽療法士、元特別支援学校教師、保育士など専門分野の資格を持ったスタッフのもと、チームワークで、利用者一人一人の気持ちを大切に個性を伸ばし、自分を表現できるよう5領域を意識した支援をしている。	「やりたい」気持ちを尊重し無理はせず、本人の気持ちに共感した支援を行っている。本人に役割を持たせてみる（音楽）	療育活動を行ったスタッフだけでなく、全スタッフからの感想や意見をスタッフミーティングで募り、次回につなげていく。
3	利用者が自発的な遊びを行うことによって、想像や発想などの力を養うことができる。	ごっこ遊びなど、スタッフも一緒になって楽しみ、強制はせず、困った時には助言をしたりして遊びを膨らませている。	時には、他の利用者も何らかの関わりを持ち、一緒に遊べるよう声掛けして誘ってみる。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフミーティングに、全スタッフが出席できず、共有事項は都度、伝達しているがなかなか共有が難しい。	ダブルワークをしているスタッフが多いうえ、平均年齢が高く、若いスタッフが少ないこと。	若いスタッフ、男性スタッフの募集。一人一人がスキルアップできるように、研修を充実させ積極的に参加してもらうよう声をかける。
2	保護者会を行っているが、参加者が毎年少なく、日程の設定、議題の内容の検討が必要。	働いている保護者も多く、時間的余裕がない。スタッフ側も、日常事務に追われ、時間的余裕がない。	学校を卒業してからの、仕事の事や将来に向けての準備などの情報を取り入れた勉強会など、参加して役に立ったと思える工夫を考える。
3	長期休み等の朝からの預かりニーズがある時のスタッフの不足。	限られたスタッフの中でも、ダブルワークをしているスタッフが多い為、支援に入れるスタッフが制限されてしまい、常勤が対応せざるを得ないことがあり、事務時間も削られてしまう。	退職したスタッフに声をかけお願いする時もある。